

CIEC 第 81 回研究会報告

テーマ: ウェブログを活用した外国語学習の研究と実践
日時: 2009年3月28日(土)13時20分～17時10分
場所: 大学生協会館 202-203 会議室
司会: 野澤和典(立命館大学)、吉田晴世(大阪教育大学)
発表者: 柳下剛利(シックス・アパート株式会社)
上村隆一(北九州市立大学)
浦野 研(北海学園大学)
永江貴子(文化外国語専門学校)
参加人数: 29名(研究発表者を含む)

3月28日(土)午前中に行われた外国語教育研究部会第3回学習会の後を受け、大学生協杉並会館を会場として、第81回研究会「ウェブログを活用した外国語学習の研究と実践」が開催された。

まず、研究会冒頭の挨拶に続いて、シックス・アパート株式会社柳下剛利氏によるメーカープレゼンとして、「Movable Type 4の製品紹介と新聞ブログツールの紹介」と題する講演(チュートリアル)がなされた。柳下氏は Movable Type 進化の方向性として、「3C(Contents, Community, Connect)」というキーワードを挙げた。Contents とは、単なる個人の情報発信ツールとしてだけではなく、法人・団体組織のウェブサイト公開に関するコンテンツ管理システムとして Movable Type を位置づけていくことを指す。Community とは、ブログが「1対多」のコミュニケーションから SNS と同様「多対多」の双方向コミュニケーションツールに変身しつつある方向性を意味する。さらに、Connect とは、異なるブログシステムを相互に接続することにより、新たな価値観を創造していく、といった「創発」ツールとしての機能を追求していく開発方針をさしている。Movable Type 4 の具体的な Contents 改善点としては、ユーザからの要望に挙げられている(1)全般的操作性の改良(2)編集・表示メニューの柔軟性(3)動作速度の向上を実現している。



Community 関連では、グループ参加型のブログテンプレート、掲示板ツールなどを多数内蔵してきており、他のブログユーザの ID を取り込むこと(openID)もサポートしている。また、Connect 関連では、ブログ相互の連携機能、前述の openID を利用した Google, Yahoo などのユーザ登録一元化を強化している。柳下氏はさらに、ブログ機能の応用ツールとして、「新聞ブログ」を紹介した。このツールはウェブ上で、企業内広報、学級新聞など段組スタイルのブログ構築を容易に行えるものである。

上村氏は、「Podcast 英語教材配信用ブログサーバの活用事例」と題して、通常のブログ利用とは若干違った角度から、英語教材配信ツールおよび英語音声ブログ開設ツールとしてのブログサービスの実例を示した。時間の関係で、実際の授業で導入したことによる具体的な教育上の効果があったか、学生からどのような反応があったかなどについては触れられなかったが、Moodle その他の LMS との連携により、学習履歴と教材コンテンツ管理を一元化することの利点についてデモを交えながら説明した。

浦野氏は、「Fluency 獲得を目指した教室外ライティング活動におけるブログの利用」と題して、同氏が所属する経営学部の「総合実践英語」カリキュラムの科目であるライティング・ストラテジーという自由英作文関連科目においてブログツールを活用してきた実践報告を行った。はじめに、英語の授業でブログを使う動機付けとして、学生が大学入学前にライティング経験が乏しく、自分の考えを英語で表現する fluency を獲得する手段が必要なことが挙げられた。外国語教育でブログを使うことの意義については、まだ実践事例が少ないものの、いくつかの先行研究によれば、能動的な学習への動機付けとして有効であり、学習者自身からも前向きな評価が得られているという。同氏の授業においては、授業時間内にライティングを十分演習する時間が取れないため、授業外の課題として毎週 1 つのトピックを担当教員が設定し、class blog (教員と学習者全員が 1 つのブログを共有し、情報・意見の交換を行うもの) に学生のエッセイ(300 語程度)を投稿させている。書き放しになることを防ぐため、投稿後には他の学生からのコメントを付ける形でレビューを行っている。



同氏の英語授業におけるブログ利用の特徴は、「質よりも量」を重視し、できるだけ多くの英文を個々の学生に書かせ、英語で自分の考えを表現するという習慣を身につけさせる目的に限定していることである。ちなみに、同氏が LMS として別途利用している Moodle にも「フォーラム」機能があり、あえてブログ機能のみに特化したソフトウェアを使う必然性があるのか、との質問が参加者から出されたが、英語以外の科目では大学が正式にサポートしている CMS があり、特定の英語科目で上記の目的だけに何らかのツールを使うとすれば、むしろブログ専用ソフトの方が適しているとの説明であった。

次に、永江氏は「ウェブログを活用した日本語教育実践」と題して、所属校の留学生を対象とする日本語選択授業におけるブログ利用の実践報告を行った。はじめに、当該授業科目である「E メールとブログで学ぶ日本語Ⅱ」の目的は、(1)留学生自身が開設したブログを通じて、日本語で自分の意見を書くことに慣れてもらう(2)コンピューターリテラシーの向上、の2点であることが説明された。授業に関する連絡や受講者管理は Google グループを使って行われた。ブログ開設の手段としては、Excite の無料サービスを利用した。その結果、授業開始前には「日本語でメールのやり取りができない」「日本語で word ファイルを作成できない」といった学生が終了時には日本語で自由にメールのやり取りができるようになった。また学生同士にコメントを書かせたり、他の先生の協力により学生のブログにコメントを残したりすることでブログを書くこと自体が楽しみ・励みになり、授業に参加した学生は週に最低1回はブログを書き、日本語のライティング能力のアップにもつながったという。



なお、永江氏の授業を受講している韓国人留学生2名が研究発表に同行して来ており、自分自身のブログ開設に関する体験を語りながら、コンピュータ画面上でブログの作成プロセスやデザイン構成等に関する説明を日本語で行ったが、彼女達はすでに日本語能力試験1級を取得済みであり、かなりレベルの高い内容を表現できているように思われた。



最後に、自由討論の時間を設けて、発表者と参加者の意見交換を行ったが、ブログを外国語教育のツールとして本格的に活用した事例はまだ少ないこともあって、さまざまな質問、意見が参加者側から出され、特に今後授業実践の中でどのようにブログをコミュニケーションツールとして位置づけ、さらに双方向的な学習方法の一つとして発展させていくかについて、活発な議論がなされた。

当初、年度末ということもあり、参加者数の確保ができるかどうか懸念されたが、発表者3名と外国語教育研究部会世話人なども含めて29名という予想以上の参加人数を得て、盛会裏に実施することができたと思われる。

(文責：上村隆一)